

# カルメル 靈性センターニュース



2024年6月 409号

## 目次

目次	1
心の泉	2
カルメル会の企画案内	23
東京	24
名古屋	27
京都	28
通信深読お申込みのご案内	32
諸所の企画案内	33
靈性センターニュース郵送終了のお知らせ	37

# 心の泉



宇治カルメル会修道院

DE IMITATIONE CHRISTI  
キリストにならう バルバロ訳



**第四卷 聖体拝領への信心の勧めはここにはじまる**

**第一章 どれほどの尊敬をもって、**

**キリストを拝領しなければならないか**

**6 二つの箱**

実に契約の箱のなかの尊いものと、もっとも聖なる清いおんからだとの間には、大きなへだたりがあります。未来の前表であったそのいけにえと、昔のいけにえの実現であるあなたのおんからだのいけにえとの間には、なんというへだたりがあることでしょう。それなのになぜ私は、礼拝しなければならないあなたの前にあって、これ以上燃え立たないのでしょう？いにしえの太祖と預言者、諸王、諸君主、全人民は、深い敬虔をもって神を礼拝したのに、なぜ私は聖なる秘跡を、たくさんの熱意をもって準備しようとしないのでしょうか？

**7 ダビデ王**

敬虔なダビデ王は、その昔、先祖たちに与えられた恩恵を思い起こし、神の箱の前で一心に舞い(サムエル上 6・15 参照)、楽器を作らせ、詩編を書き記し、それを歌わせ、自分でもしばしば聖霊にうながされて、喜びのうちに豎琴をとって歌い、心を尽くして神を賛美し、日々声を合わせて神を祝したたえなさいとイスラエルの人々に教えたのです。昔、それほどの敬虔があらわれ、契約の箱の前に、神への賛美がのぼっていたのなら、キリストの聖体の秘跡を拝領する時、私に、そしてすべてのキリスト信者の心に、心からの敬虔と熱意とがなければならないのではないでしょうか？

**8 聖人たちの遺物**

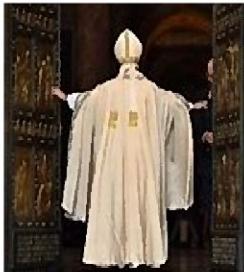
人は、聖人たちの遺物を見るために各地を訪れ、その功績を聞いて感嘆し、莊厳な大聖堂に目をみはり、絹と黄金とにつつまれている聖なる遺骨に接吻します。しかし、私の近くにある祭壇の上に、いと聖なるあなた、人類の創造主であり、天使たちの主である神がおいでになります。

巡礼の際は、しばしば人間的な好奇心や新しいものをみたいという望みにかられがちです。特に軽薄な行動に流れやすく、真の痛悔のないかぎり、生活を改める効果も生じないです。しかし、ここ、祭壇の秘跡においては、あなたがそのまま神として、そして「人間キリスト・イエスとして」(一テモテ2・5)、完全に存在されます。ここで、ふさわしい敬虔をもって聖体を拝領すれば、そのたびに、永遠の救いへの豊かな実が結ばれます。人は、軽薄、好奇心、官能の快さのためにこの秘跡に引かれることはできません。そこに引きつけるものは、固い信仰、熱い希望、真実の愛徳にほかなりません。

二〇二五年へ向けて

## 聖年・テレーズ列聖百周年

2024-6



聖なる扉が開かれ、聖年の開始が告げられる12月までの月日、「この恵みの行事と神の希望の力をよりよく体験できるよう準備するために、祈りを強めていって欲しい」と教皇様は願われ、そのために、「祈りの偉大な価値と、個人生活・教会・世界における祈りの絶対的必要を再発見すること」を望んでおられます。

主よ、もし あなたが私のところに来られなかつたら私は存在していません。

もし わたしを生み イエスにおいて生まれ変えてくださらなかつたら

主よ 私はあなたと出会えませんでした。

もし あなたが私と出会うために来てくださらなかつたら

主よ 私はあなたと出会えませんでした。

主よ たびたび私はあなたを忘れましたが

私が準備できるまであなたは待ってくださいました。

もし 私が迷っても あなたを見出せるように 私を呼んでください。

あなたが私と共にいてくださることによって、

私を真の自分自身に立ち直らせてください。



「いのりの道」幼きイエスのマリー・エウゼンヌ師とともに」47p :聖母の騎士社、聖母文庫



あなたの愛に生かされるために、  
あなたの慈しみ深い愛に、私をささげます。  
あなたのうちにせき止められた無限の慈しみの波を、  
私のうちに満ちあふれさせ、主の愛の殉教者にしてください。

神の慈しみ深い愛へのテレーズの祈り

主よ、あなたは決して不可能なことをお命じにならないのを知っています。

あなたは私以上に私の弱さ、不完全さをご存知です。

もしも、あなたが私のうちに愛されるのでなければ、

私が あなたが愛されるように人びとを愛することが

決してできることをよくご存知なはずです。



テレーズの祈り 57

伊従 信子(いより のぶこ)  
ノートルダム・ド・ヴィ

どうしたら人を赦せるのでしょうか。

赦しは、まず自分自身が神に赦しを願うことから始まります。

だれにも、「あの人だけは赦せない」という人が、長い人生、一人や二人は出てくるのではないか。教皇さまの言葉は、私たちが人を赦す前に、まず自分自身が神から赦されなければならない存在、とんでもない罪人であることに気づくことが必要だということでしょう。

ペトロが「主よ、兄弟が私に対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。七回までですか」と聞いて来た時、キリストは、「仲間を赦さない家来」（マタ18・21-35）のたとえを話されました。王（すなわち神）に一万タラントンの借金をしている家来は、私たち一人ひとりのことです。一タラントンは六千デナリオン。その一万倍ですから、六千万デナリオンとなり、一デナリオンが一日の賃金なので、六千万日（16万年）、休みなしで働かねば返せない膨大な借金となります。これに対して仲間（他の人間）に貸した借金は、わずか百デナリオン（百日）。

要するに、私たちが何よりも神から赦してもらうべき存在（「罪業深重 煩惱熾盛の凡夫」）であることに気づけば、人を赦すどころの話ではなく、人を無限に赦さないではおられないということになるのでしょう。

九里 彰

# 十字架の聖ヨハネのこぼれ話（191）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

## 権威の行使において（5）

聖人が取り上げる話に皆はうんざりさせられることなく、そこからくみとられる善益のゆえに、また彼の話のピリッとした味わいのゆえに、靈的な火と光をたずさえて、共同休憩の場を後にしました。というわけで、何かの活動のために共同休憩がなくなったり、聖人が修道院に不在になったりすると、皆はとてもがっかりしたものです。このように彼がいることは、望ましく、喜ばしいことだったのです」。

聖ヨセフのマルティンは、次のように証言しています。「彼はいつも普通に（神の）事柄を取り扱いながらも、話はどのような時でもどのような場所でもとてもすばらしく、不愉快なものでも重苦しいものでもありませんでした」。他の所では、こうも言っています。「ある時、彼の話を聞いてとても満足した私は彼をほめそやしながら、彼が疲れないようにと望みました。すると彼は、私たちの主について昼も夜も話すとしても、私は疲れなかつたし、疲れないことだろう、ちょうど聞いている人が疲れないように、と私に言いました」。

こうして私たちは、心地よさやピリッとした味わいやお恵みや親愛の情を彼からもらいました。彼は、いつも聞く者にもっと聞きたいという望みを残し、時々私たちには大げさと思われるようなとても大きな関心を引き起こしました。けれども信頼するに足る証人たちは、彼をほめたたえています。彼の話を聞きたいという望みについては、農園の労働者である聖エウフェミアのヨハネのように、教養のない人々までも証言しています。この証人や他の修道者たちも、彼の話に夢中になりました。

(P.九里訳)

## キリストの聖体

(マルコ14:12-16、22-26)

キリストの聖体の祝日。今年はマルコ福音書の聖体制定の箇所が読まれます。最後の晚餐の話がなされる最初の記述は、「除酵祭の第一日、すなわち過越の小羊を屠る日、弟子たちがイエスに、『過越の食事をなさるのに、どこへ行って用意いたしましょうか』と言った」(14:12)。です。

この除酵祭と過越祭は元来異なった祝日だと言われています。「過越祭は通常、羊飼いたちが、群れが夏の放牧地へ無事に移動することを保証しようとした、定住以前の時代の春の儀式に結び付けられ、除酵祭は、カナン定住以後、農民がその群れと作物の多産の保証を望んだときの儀式に源があると思われる」(バレンタイン、山森訳)ということです。二つの異なった祭りが出エジプトの出来事によって一つのものとして祝われるようになりました。

レビ記23章には祝うべき祝祭日が7つ示されています。安息日から始まり、春の祝日として過越と除酵祭、初物、七週祭の3つ、秋の祝日として角笛、贖罪日、仮庵祭の3つです。レビ記は、これらの祭りは全て安息日を土台とし、安息の精神を生のあらゆる側面に実現するためのものとして描いています。創世記の初めの、神が7日間かけて世界を創られた話は、神の創造が、様々ないのちが、それぞれのいのちの輝きに満ち満ちるように配慮し、それぞれの美しさを安息のうちに味わい、喜ぶことへと向かっていることが書かれています。レビ記は私たちに、8日目からは人がその務めを引き継ぎ、世界に神の創造のわざを示し、最終的にシャローム(平安)をもたらすために生きるよう教えていました。

イエス・キリストの聖体は過越・除酵祭に新たな意味を与えましたが、イエス・キリストが目指し、実現されたことも、真のシャロームの実現でした。

P.志村

## 年間 第10主日 (B)

(マルコ3：20-35)

聖マルコの福音書は、イエスの人間としての姿とイエスの感情を簡潔に示しています。特に次の箇所でイエスの真の人間性を見るることができます。

**イエスのまわりに群衆が集まってきた。イエスは気が変になっていると思う者もいた。**

**エルサレムから下ってきた律法学者たちもイエスはペルゼブルに取りつかれていると責めた。**

イエスは、サタンがサタンを追い出すことはできないと教えられた。イエスはさらに内輪もめしている家族は成り立たないと説明された。イエスはまた言われた、強い人が縛られていなければ誰も強い人の家には押し入ることはできない、と。イエスの教えには聖靈に対する罪は許されないということも含まれている。

**イエスがこのように言わされたのは、イエスは汚れた靈に取りつかれているという人々がいたからである。終わりにイエスは彼らに神のみ旨を行う人は誰でもイエスの兄弟であり、姉妹であり、母であると言われた。**

福音書は、イエスのまわりの人たちや家族との出会いを描写しています。彼らはイエスが気が変になったと考えました。それはイエスに対する大きな侮辱です。イエスが実際に悪靈にとりつかれた人を解放したとき、彼らはイエスを悪靈にとりつかれていると非難しました。彼らはイエスに対するあやまつた非難をやめさせました。彼らはイエスの奇跡的な働きと力強い教えを制御したかったのです。これらすべての非難にもかかわらず、イエスは御父のみ旨をおこなうことにゆるぎなく、信仰深くありました。キリストの全ての眞の弟子は、キリストの兄弟姉妹であり、母であり、神の家族の一員です。イエスは神のみ旨を進んでおこなう全ての人を救うために来られました。もちろん、イエスの母マリアは私たち皆に対する偉大なお手本です。キリストはご自身の信仰上の母を軽視することはありませんでした。むしろイエスは重要な教訓を与えています。神のみ旨に対する信仰と従順によって、私たちは皆、神の家族のメンバーとなる機会を持つのです。また、誰が神の家族になるかを決めるのは、地位や立場ではなく、神の呼びかけに応答し行動することであるとキリストは私たちに思い起させてくださいます。イエスの家族になるのは、ダイナミックな過程です。それはキリストとの個人的な出会いから沸き起こります。また、それは神のみ旨への信仰と従順から生じます。キリストの弟子であるなら、神のみ旨に対する信仰と従順によって証明しなければなりません。

私たちは、洗礼によって神の子ども、イエスの兄弟姉妹、三位一体の神の天的家族のメンバーとなっていることを思い出しましょう。人々に対し愛と尊敬をもって接し、彼らと愛を分かち合う義務のあることに気づきましょう。私たちはイエスの弟子であります。神のみ言葉を聞く者であると同時に実行する義務のある者であります。

(Sr. Pauline)

## 年間 第11主日

(マルコ4:26-34)

今日のみことばは、神の国についてのたとえ話です。最初のたとえ話の中でイエスは、「人が土に種を蒔いて、夜昼、寝起きしているうちに、種は芽を出して成長するが、

どうしてそうなるのか、その人は知らない。」と言われます。そしてそれだけではなく、小さな「からし種」を用いて神の国について話されます。

私が住んでいる修道院では、種からではありませんが、苗を買ってきて庭に植えて、育てています。しかしながら聖書にある様にどうしてそうなるのかは良くわからないというのが現実ではないでしょうか。知識として様々なことは知つてはいるのですが・・・。

成長、それは神の恵み、神秘と言えるでしょう。私たちは過ぎゆく時間の中にあって、あの時、この時、時々の状況を眺め、芽を出し、茎が伸び、花が咲いた、実を付けたことを知る訳です。そして刈入れの機が熟したことを知り、農夫は実りの収穫を行います。

天の父、神であるお方の最愛の子、神の御独り子は人となってこの世に来られました。イエスがこの世に来られたことによって、私たちのうちに神の国は始まったわけです。神の支配があるところが神の国。この世界に神の国が広がり、完成することを目指し、私たちもそれぞれの場で、農夫の様に「神の国」の成長に関わりながら歩んでいます。私たちもそのための道具として働きますが、神の働きがなければ、「神の国」は成長することはできません。神の働きは目に見えないけれど、とても大きな力があります。

神の国、私たちの内の広がりも大切ですが、私の内ではどうなっているでしょうか。私という自分の心の内に神の支配があるでしょうか。神に心を開いているでしょうか。自分自身と神との関係を見つめることも大切ですね。私のうちに神が働くとされても、心を閉ざして神に心を開いていなければ、神が私のうちで働く、私たちが変えられて成長してゆくことはできないでしょう。

神に心を開き、信頼しながら、より頼みながら、神とともに歩んでゆけますように。私たちが神の国のための良き道具として働いてゆくことができます様に。

(Fr. 古川利雅)

## 年間 第12主日 (B)

(マルコ4:35-41)

今日の福音で描かれる嵐を静める場面は、神が世界の創造主であることを改めて思い起こさせてくれます。神は、世界のあらゆる自然的、物理的、靈的な力と現象を制御する力を持っています。神は、世界をその手中に收め、私たちの人生や世界の歴史の道のりを導いてくれます。神は、子どもである私たちに対し、人生の嵐の真っただ中においてもキリストがともにいてくださると励ましてくれます。

これこそ今日の福音のとても大切な教えです。私たちの人生は、まさに時間という海を渡って永遠の海岸を目指す旅路です。航海中、私たちは皆、多かれ少なかれ嵐を体験します。絶えず順風満帆な人は誰一人いません。それが神のみ旨です。主は、その夜ガリラヤ湖で嵐が起ると分かっていました。嵐や暗闇の時にイエスの保護と助けの力を弟子たちに信頼してほしかったので、主は弟子たちが恐ろしい嵐に遭うのを許されました。神の教会は、その歴史の最初から、創造主かつ保護者であるキリストがいなければ倒れてしまったであろう嵐や苦難をくぐり抜けてきました。

教会の歩みは、教会の一員一人ひとりの人生にも当てはまります。人生ではたくさんの嵐に遭遇します。人間の力では太刀打ちできない激しい嵐もあります。そんな時、私たちの人生は恐怖と思い悩みに支配され、神への信頼を失って神の存在そのものを疑う時もあるかもしれません。しかし神は私たちの人生で起こるすべての嵐をあらかじめご存じだと覚えておきましょう。私たちが天国に向かう困難を乗り越えるために役立つ手段として使うために嵐の発生を許されるのです。苦難と試練の嵐を通じて神に近づいてその救いの力を信じるときにはじめて、自分が神の真実の弟子であることを証明できます。

ですから、不快なことも快適なことも、雨も晴れも、痛みも喜びも、私たちの永遠の目的地である天国にたどり着く手段として使いましょう。

(Sr.Paulina)

## 年間 第13主日（B年）

（マルコ5：21-43）

今日の福音は、ヤイロの娘とイエスの服に触れる女の話です。マルコはマタイ（9:18-26）やルカ（8:40-56）の並行記事と比べて一番長く、読み応えがあります。

12 年間出血の止まらなかった女性がイエス様に全ての希望を掛けて大勢の群衆に紛れ込み、イエス様の衣に触れ、癒された後、イエス様はご自分からご自身に触れた女を見つけようと探しました。この時のこの女性の心情を、マルコは「群衆に紛れ込み」（27節）と「女は自分の身に起こったことを知つて恐ろしくなり、震えながら進み出てひれ伏し、すべてをありのまま話した」（33節）と、ルカは「女は隠しきれないと知つて、震えながら進み出てひれ伏し」（ルカ8:47）と描いています。マルコにはルカのように女が自分を隠そうとしていたとは書かれていませんが、群衆に紛れ込んで触れようとしたことから、イエス様に知られずに癒してもらいたかった心情が窺えます。しかしイエス様は、その女性を見ていましたが、その女性が心からの信仰（信頼）と希望を持って衣に触れ、癒されたことに気づき、群衆の人込みに紛れた女性を探しました。隠し切れないと思った女性は探しているイエス様のもとに行き、すべてをありのまま話しましたし、その結果、イエス様から直接救いの言葉をいただくことができました。

この話は、神が、癒しと救いを必要としているながらも隠れている人を探す話です。それは創世記3章9-10節と重なります。神様は救いを必要としながらも隠れている人に今も呼びかけています、「どこにいるのか」と。人は、神様からのこの呼びかけに、自分の内面をさらけ出し正直に答えていました。創世記3章15節の原福音よりも前のこの箇所に、人の救いの可能性の端緒が表れています。イエス様があの女性を探したのは、肉体的な病気の癒しだけでは真の救いが実現していないからだと思われます。真の救いは、探している神に、自分のありのままをさらけ出した先の、神からの救いの言葉。人にいのちを与えると常に思つておられる神との赤裸な関係のうちにあります。

P.志村

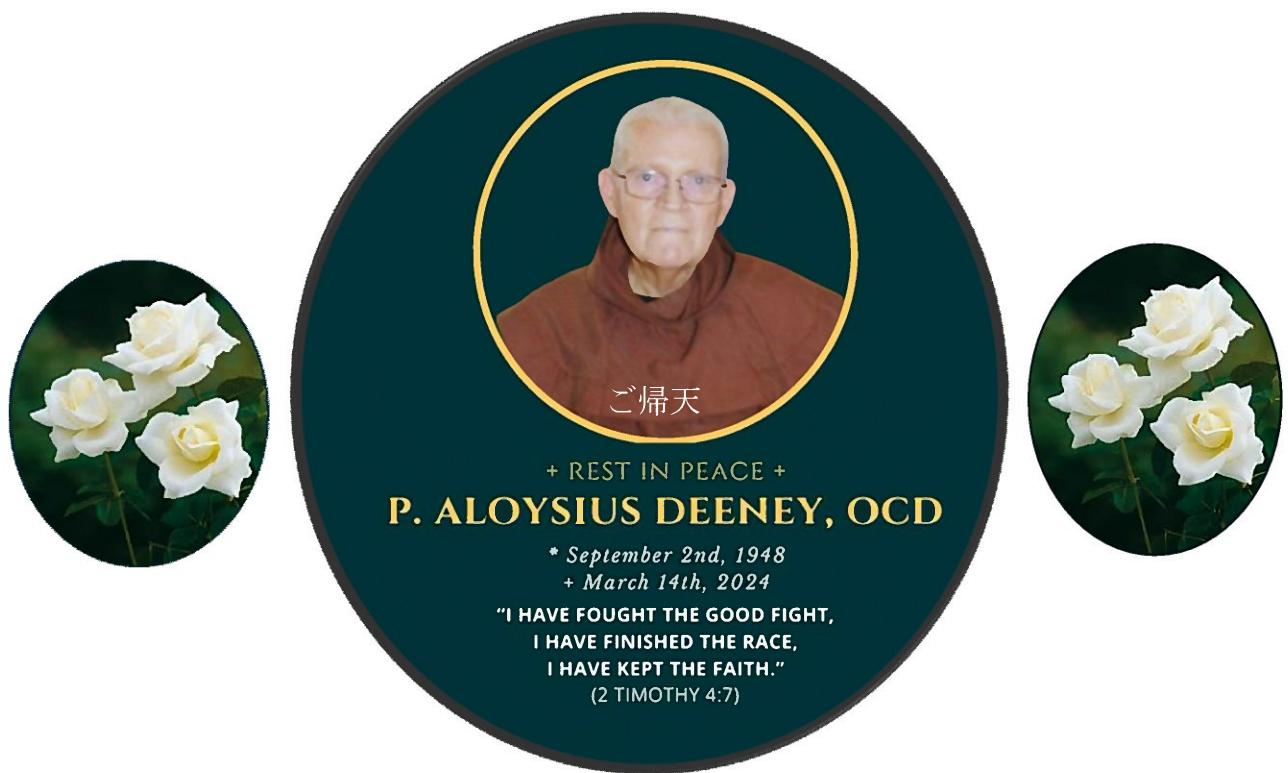
# 跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2024年4月20日

## 跣足カルメル修道会 アロイシウス・ディーニー神父様 ご帰天



「わたしは、戦いを立派に戦い抜き、  
決められた道を走りとおし、信仰を守り抜きました」  
(テモテへの手紙二 4 : 7 )

2024年3月14日、アロイシウス・ディーニー神父様 (Geoge Joseph Deeney) が癌のためインドネシアにて75歳でご帰天されました。

アロイシウス神父は、1948年にアメリカのペンシルベニア州で生まれ、1974年5月18日にフィラデルフィア大司教区の司祭に叙階されました。その後、彼は跣足カルメル修道会のワシントン管区で初期養成を受け、1984年5月1日にオクラホマ管区で初誓願を立てました。1990年、オ克拉ホマ管区の管区長に選出され、6年間管区長を務めた後、3期目にさらに3年間、任務につくことになりました。

しかし、その3期のわずか1年半後、彼はローマに移動し、管区長としてヒスピニック系の人々の召命を支援し、管区にバイリンガルの典礼を導入しました。

1998年、彼はOCDS（跣足カルメル在世会）の総長代理に指名されました。彼のOCDSの新しい会憲発布への貢献はよく知られています。その後、2009年「ようこそ跣足カルメル在世会へ」と題する本を著作しました。在任中、彼はインドネシアに赴き、インドネシアにおけるOCDSの設立にも大きな役割を果たしました。

アロイシウス・ディーニー神父様が  
主のみもとで、安らかに憩われますよう お祈り申し上げます。

(訳・注:小宮山延子)

# いのちの言葉 6月

神の国は次のようなものである。

人が土に種を蒔いて、夜廻、寝起きしているうちに、種は芽を出して成長するが、  
どうしてそうなるのか、その人は知らない。<sup>1</sup>

(マルコによる福音書 4・26-27)

「神の国」は、マルコの福音書が「良き知らせ」として伝えようとしている、イエスのメッセージの核心です。ここでは、種の例えを用いて、ごく短く語られています。種はひとたび土に蒔かれれば、その生命力がひとりでに放たれ、実りがもたらされるのだと。

今日の私たちにとって、神の国とはどんなものでしょうか。私たちの、個人としての、また共同体としての、常に期待と絶望のはざまにぶら下がってきた歴史を眺めるとき、そこに神の国と呼べる何かを見出すことができるでしょうか。もしその種がすでに蒔かれているのなら、なぜ平和の実現、安全な暮らし、幸福といった実りを目にできないのでしょうか。

神の国は次のようなものである。

人が土に種を蒔いて、夜廻、寝起きしているうちに、種は芽を出して成長するが、  
どうしてそうなるのか、その人は知らない。

このみ言葉は、イエスが、神が人類の上に持つておられるご計画を完全に信頼していることを伝えています。「地上に来られたイエスにとっては、（世に打ち勝ったという）ご自分の勝利によって、神の国はすでにこの世に存在するものです。そして歴史に終止符を打つことになる神の国の完成は、すでに保証されているのです。教会とは、神の国を信じる人々の共同体であり、神の国の始まりでもあるのです。」<sup>2</sup>

このみ言葉を受け入れる人すべてにイエスは、神の賜物を受け入れるために土壤を準備し、神の愛に希望を持ち続ける役割を委ねます。

「人間がどれだけ努力したり、苦行を重ねたりしても、またどれほど研究を重ね、知的探求をしようとも、それによって神の国に入れるわけではありません。神ご自身が私たちを訪れ、その光でご自分を現わされ、その恵みで私たちに触れて下さるのです。

そこには、自分の功績を誇ったり神の賜物を得る権利として主張したりできるものは何もありません。神の国は無償で私たちに差し出されるものなのです。」<sup>3</sup>

神の国は次のようなものである。

人が土に種を蒔いて、夜廻、寝起きしているうちに、種は芽を出して成長するが、  
どうしてそうなるのか、その人は知らない。

種を放って蒔くこと。自分のために取っておくのではなく、広く、信頼の心で蒔くこと。夜昼、つまり、神の国は静かに成長します。私たちが体験する闇夜においても。種がいったん蒔かれたら、継続した作業や管理の必要はなく、むしろ、自然の成り行きを忍耐強く待つことが求められます。

時が来たら実りをもたらす愛の力に信頼をよせることを、このみ言葉は促してくれます。自ら育つものを、結果を焦ることなく、忍耐をもって見守るすべを教えてくれています。そのように自由な気持ちになれば、相手が秘めている可能性が、必要な時間をかけて育つことを尊重しつつ、その人の今のままの姿を受け入れられるようになるでしょう。

「結婚を一ヶ月後に控えた息子から焦燥した様子の電話がありました。結婚相手の彼女が麻薬に再び手を出している、どうしたらいいかというのです。答えを出すのは簡単ではありません。この機に乗じて、結婚を取りやめるよう説得することもできましたが、正しい選択には思えませんでした。息子に、自分の心をよく見つめるようにと提案しました。… 長い沈黙が続きました。そして彼は、『もっと愛することができると思う』と言いました。結婚してから、二人は外来通院サポートのあるいいリハビリ施設を見つけました。14か月間過ごす中で、彼女は一切の麻薬を断つ努力を続けることができました。皆にとって長い道のりですが、私たち夫婦がときには涙交じりにでも保とうと努めている福音的な愛から、デリケートな状況にある息子を愛する力をもらっています。この愛はきっと、息子にとっても、どのように妻である彼女を愛すればいいかを知るうえで助けになっていると思います。」<sup>4</sup>

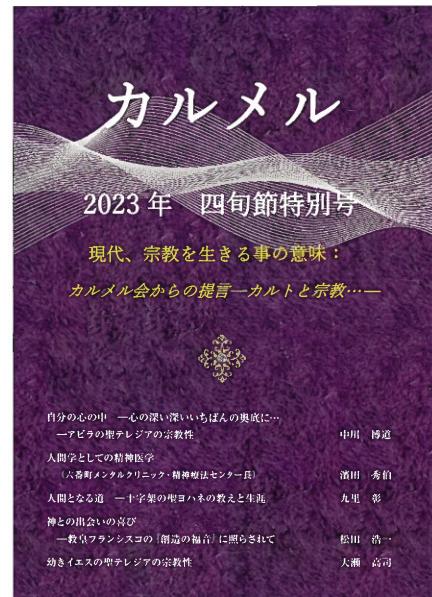
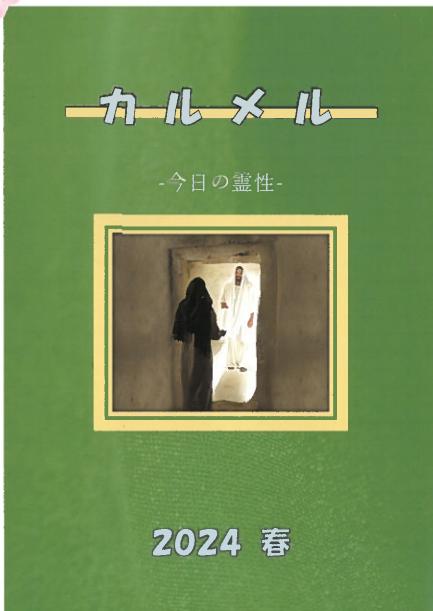
レティツィア・マグリと「いのちの言葉」編纂チーム

\*いのちの言葉は聖書の言葉を默想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

1. 日本聖書協会『聖書 新共同訳』
2. キアラ・ルーピック、1983年8月の「いのちの言葉」より
3. キアラ・ルーピック、1979年10月の「いのちの言葉」より
4. S.ペッレグリーニ、G.サレルノ、M.カポラーレ編纂、「行動する家庭 いのちのモザイク」チッタノーバ社、ローマ 2022年 P74

連絡先：フオコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812  
E-mail:tokyofocfem@gmail.com ホームページ：<https://www.focolare.org/japan/>

# カルメル誌 新刊案内



## 2024年 春号 No.392

### カルメルの外のカルメル

—教会の外から見られたアビラの聖テレジアと  
十字架の聖ヨハネ(5) 鶴岡賀雄

シノダリティーにおける「信仰の感覚」と  
十字架の聖ヨハネの「暗夜」の一考察 松田浩一

テレーズ列聖百周年に向けて  
—レオニー 妹テレーズの「幼子の道」を行く(1)  
伊従信子

陶器師の山暮らしの日々から  
ラウダート・シ=神のいのちへの道(1) 椿 権三

風に吹かれて再び(7)—バベルの塔 原 造

キリストの説かれた 幸いなる道(9) 九里 彰

靈的研究会講義録(23)—聖書・祈り・愛について  
奥村一郎

## 2023年 四旬節特別号

### 現代、宗教を生きる事の意味: カルメル会からの提言—カルトと宗教—

自分の心の中一心の深い深いいちばんの奥底に…  
—アビラの聖テレジアの宗教性 中川博道

人間学としての精神医学 濱田秀伯  
(六番町メンタルクリニック・精神療法センター長)

人間となる道—十字架の聖ヨハネの教えと生涯 九里 彰  
神との出会いの喜び

—教皇フランシスコの『創造の福音』に照らされて  
松田 浩一 幼きイエスの聖テレジアの宗教性 大瀬高司

ご案内

1冊 580 円 A5 サイズ 50~70 ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・  
各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、1冊 580 円 (+送料 140 円) を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費（年 5 冊：春夏秋冬+特別号 計 3,600 円）を  
下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跡足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当：内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又は e-mail で。  
〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

# 新刊紹介

## ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた  
ニコラオ・プレシェル神父の講話Ⅱ



Onoaki Katsue 著

中川博道師  
(カルメル会)  
《推薦》

教友社◎ 定価：1,650円(税込)

聖母マリアは、“イエスを愛し信じて生きるキリスト者の典型・模範”です（教会憲章53番）。ニコラオ師はロザリオを通して、日々私たちが、イエスの神祕をマリアとともに生きる道をわかりやすく説明してくださいました。

## ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた  
ニコラオ・プレシェル神父の講話Ⅱ

【出版社】 教友社

【著　者】 小野崎良子：編

価格 1,650 円 (税込)

品番/ISBN: 9784907991807

発売/発行年月: 2022年3月

判型: A5

ページ数: 184

「ニコラオ神父様が、ロザリオの祈りを捧げながら歩いているときに、突然十五の玄義の流れが鮮明に示され、ご自分の中でまとまったその内容をわたしたちに語られました」（「はじめに」より）。ニコラオ師亡き後、師の薰陶を受けた信徒たちによって記録された講話が1冊の本に。中川博道師（カルメル会）推薦。

### 小野崎 良子(おのざき・りょうこ)

1950年夕張市大夕張の炭鉱の町に生まれる。小学4年生の時、「クリスマスにはプレゼントがもらえる」という級友の誘いに乗り、高校卒業まで熱心にカトリック教会に通う。その後地元を離れ旭川の学校に進学。青春を謳歌する日々の中、ふと感じた「空虚さ」を確かめるために再度教会(大町教会)を訪ねる。そこでニコラオ神父様に出会い受洗にいたる。

39年間の教職生活を終えた後、ラジオで流れたキャロル・サック宣教師の歌とハープに触発され、日本福音ルーテル社団主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」にて2年間の養成を受ける。現在は求めに応じて、病床にある方、高齢者などを訪問し歌とハープによる祈りをお届けしている。

### ニコラオ・プレシェル神父

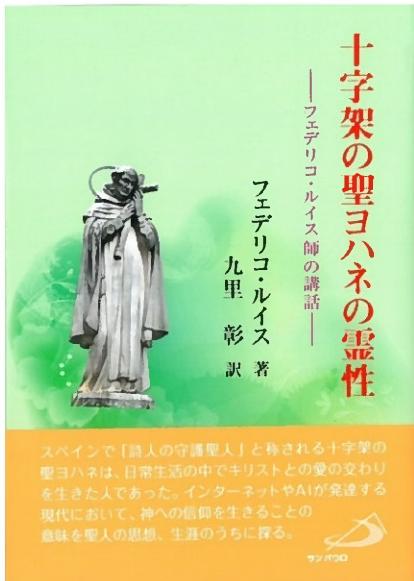
1921年、(旧)チェコスロバキアに生まれる。1940年、ドイツ軍無線通信兵として従軍。

1946年、フランシスコ会に入会(ドイツ・フルダ管区)し、1952年、司祭に叙階される。

1953年、来日。1956年、カトリック名寄教会着任。以後、美唄教会、大町(旭川)教会、枝幸教会、稚内・枝幸教会、富良野教会にて司牧。

2001年以後、フランシスコ会札幌修道院、月形町藤の園にて療養する。

2007年1月6日、月形町藤の園にて帰天(85歳)。



## 『十字架の聖ヨハネの靈性』

フェデリコ・ルイス師の講話  
〈十字架の聖ヨハネ・靈性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN : 978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「靈性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、靈性を正しく理解することの基礎となっていました。

### フェデリコ・ルイス・サルバドル

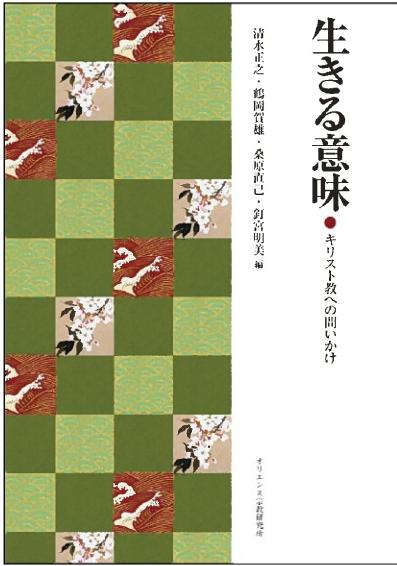
1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

### 九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長



# 書籍案内

## 生きる意味

### ●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

### ——目次——

- 序 「生きる意味への問い合わせ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稻場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴテラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの靈性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による靈性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその靈性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ



# 愛と英知の道

—すべてのための靈性神学—  
タカラ・サンジョントン著



# 愛と英知の道

—すべてのための靈性神学—

タカラ・サンジョントン著

岡島 禮子 監訳  
九里 彰 洋子 共訳  
三好 淑子 渡辺 愛子 共訳

西洋と東洋の神秘主義の伝統に辿り着いた著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した靈的生き道。「すべての人は、聖職階級に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」(「教会憲章」39)。本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたこと、「21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探求において私どもと心を一つにしておられる方々にも、本書を勧めています。

第一部 キリスト教の伝統	第1章 背景(1)
第二部 対話	第2章 背景(2)
第三部 現代の神秘的な旅	第3章 理性対神祕主義
	第4章 神祕主義と愛
	第5章 東方のキリスト教
	第6章 愛を通して生まれる英知
	第7章 科学と神祕神学
	第8章 修徳主義とアジア
	第9章 恨意的なエネギー
	第10章 英知と宇宙
	第11章 信仰の旅
	第12章 暗夜浄化の道
	第13章 愛のうちにある花嫁と花婿
	第14章 ～愛のうちにある花嫁と花婿～
	第15章 ～愛のうちにある花嫁と花婿～
	第16章 ～愛のうちにある花嫁と花婿～
	第17章 ～愛のうちにある花嫁と花婿～
	第18章 ～愛のうちにある花嫁と花婿～
	第19章 ～愛のうちにある花嫁と花婿～
	社会活動の神祕主義



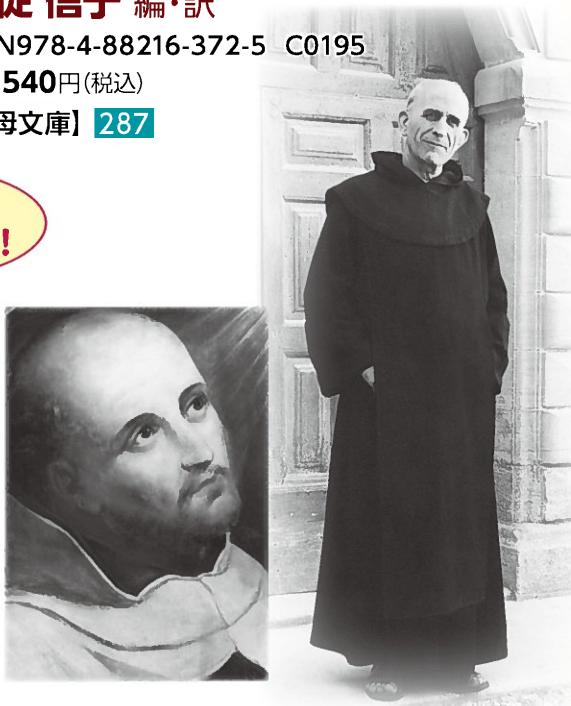
William Johnston S.J. (1925-2010)  
北アイルランドのベルファストに生まれる。  
イエズス会に入会し、26歳で米日。  
32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教を上智大学などで講じるかたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。ペドロ・アルベート・マーストーン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した靈性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で歸天。



第2版  
好評発売中！

マリー=ユジエーヌ神父が十字架の聖ヨハネを生き、体験し、確認した教えなのです。ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの教えは現代の人々にも十分適応されます。また、神の命を伝え、実践的手段を示して聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の配慮が伝わってきます。（「はじめに」より）

福者マリー=ユジエーヌ神父に導かれて  
**十字架の聖ヨハネの  
ひかりの道をゆく**  
**伊従 信子 編・訳**  
ISBN978-4-88216-372-5 C0195  
定価**540円(税込)**  
【聖母文庫】**287**



## 神と親しく生きる いのりの道

福者マリー=ユジエーヌ神父とともに  
R. ドグレール / J. ギシャール 著  
伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 [聖母文庫] **246**  
定価**540円(税込) 209頁**



## わたしは神をみたい いのりの道をゆく

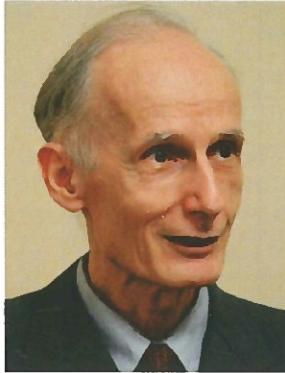
マリー=ユジエーヌ神父とともに  
伊従 信子 編・著

ISBN978-4-88216-339-8 C0195 [聖母文庫] **268**  
定価**648円(税込) 281頁**



— ご注文・お問い合わせ先 —

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1  
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



## クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構架して、キリスト教信仰と靈性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、靈的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

ISBN

定価(本体+税)

第 1 巻	I 超越体験 一宗教論	9784862852151	3,800 円+税
	宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い合わせ」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理義と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p		
第 2 巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想	978-4862852175	4,600 円+税
	日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p		
第 3 巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質	9784862852205	5,000 円+税
	主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と靈性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p		
第 4 巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論	9784862852212	4,000 円+税
	古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐっての根本的な問い合わせを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拡げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p		
第 5 巻	V 自己の解明 一根源への問い合わせと坐禅による実践	9784862852229	4,200 円+税
	信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問い合わせから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です！」収録。全35作、470p		

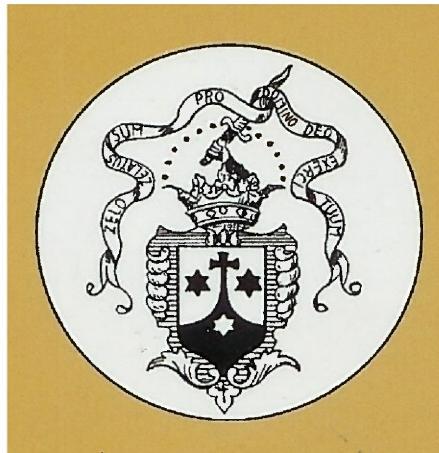
### ●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公私立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館 〒113-0033 東京都文京区本郷1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

## カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

**Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum**

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19：10）



## 東京 上野毛 灵性センター

默想企画 \* \* 上野毛 聖テレジア修道院（默想）\* \*  
(2024年4月～)

- ・聖書深読默想会(土曜日18時～日曜日16時) カルメル会士

2024年

4月 20日～21日 11月 9日～10日

5月 25日～26日 2025年

7月 27日～28日 1月 11日～12日

9月 28日～29日 3月 15日～16日

- ・奉獻生活者のための默想会 (初日17時～最終日朝食) カルメル会士

2024年8月16日（金）～25日（日）

★教会の祈り（時課の祈り）を軸とした 默想の場を提供いたします。

12月 27日（金）～1月 5日（日）

### 【ご利用に際して】

- ・介助やサポートなしで生活できる方、年齢は80歳までとさせていただきます。
- ・上記に抵触する方はお問合せ下さい。
- ・個人の場合はご家族・ご親族に、奉獻生活者の場合は長上にお申込者の状況をお伺いした上で、利用をご遠慮願う場合もありますのでご了承下さい。
- ・部屋は2・3階でエレベーターはありません。階段をサポートなしに1人で昇り降りできない方はご利用いただけません。



- \* 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- \* こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。
- \* 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・E メール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(默想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

E メール : [mokusou\\_kmng@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou_kmng@carmel-monastery.jp)

ホームページ : <http://www.carmel-monastery.jp>

# 2024年 カルメル会四旬節講話シリーズ

「わたしたちを愛に導くのは信頼、ただ信頼だけです」(聖テレーズのメッセージ)  
聖テレーズ生誕150周年記念 教皇フランシスコ使徒的勧告『信頼』に導かれて…

## 第1回 2月18日（四旬節第1主日）

「私は愛になりましょう」—愛の道を飛んでいくために—

今泉健神父

## 第2回 2月25日（四旬節第2主日）

詩『むしられたバラ』より —テレーズの愛の道—

九里彰神父

## 第3回 3月3日（四旬節第3主日）

「テレーズの信頼の道・小さい道とヤコブ・イスラエルにおける小さい道」

志村武神父

## 第4回 3月10日（四旬節第4主日）

「現代の闇を照らす灯火—テレーズの信仰の試練」

片山はるひ（上智大学教授：ノートルダム・ド・ヴィ会員）

## 第5回 3月17日（四旬節第5主日）

「小さな偉大さ」

伊従信子（ノートルダム・ド・ヴィ会員）

・講話を YouTube で動画配信しています。(1時間～1時間40分程)

アクセスコード URL :

<https://www.youtube.com/channel/UCUG7JhdLCoCF-tZ6uei5YpA>

2024年度の四旬節講話 YouTube 配信は7月16日までになります。

カルメル会四旬節講話は『カルメル誌特別号』に掲載されます。

『カルメル誌』購読のご案内は『カルメル誌 新刊案内』

または下記URLをご参照ください。

<http://carmel-monastery.jp/710magaz.html>

主催：カルメル修道会  
お問い合わせ：「四旬節講話係」  
[reisei@carmel-monastery.jp](mailto:reisei@carmel-monastery.jp)

## 旧約聖書から学ぶキリスト教靈性 —キリストの十字架の恵みをより味わうために—

2024年6月22日（14：30～16：30）

神の悔い（ナーハム）とエレミヤにおける新しい契約

2024年7月20日（14：30～16：30）

レビ記の全体構造とメッセージ①

その後の日程：9月21日、10月19日、11月16日

その後のテーマ：列王記の全体構造とメッセージ、  
エズラ・ネヘミヤ記の全体構造とメッセージ、など

持ち物：必ず聖書（旧約+新約）をご持参ください。

場所：跣足カルメル修道会日比野修道院（カトリック日比野教会）

参加費無料。

担当：志村武神父（跣足カルメル修道会）

問合せ：日比野修道院（052-671-1003）

## 静修の集い（名古屋日比野修道院）

2024年6月29日（土）10：00～15：00

テーマ：アビラの聖テレジアの祈り

講話担当司祭：今泉武神父

### 【スケジュール】

10：00～10：20 はじめの祈り

10：30～11：30 講話①

11：30～12：00 ご聖体顯示、念祷

12：00～13：00 昼食（各自持参）

13：00～14：00 講話②、

14：10～ミサ、その後茶話会、解散（15：00頃）

持ち物：聖書、昼食（各自）

参加費：無料（自由献金をお願いいたします）

以降の日程：10月26日（九里彰神父）、12月14日（志村武神父）



## 宇治カルメル会 黙想会案内 (2024年6月～2025年3月)

**【一般のための黙想】** 1泊2日（土曜 午後5時～日曜午後4時） 中川博道神父  
5:30 サルヴェ・レジーナ(修道院)から開始

2024年

7月20日～21日 9月14日～15日 11月16日～17日

2025年

1月18日～19日 3月1日～2日

**【聖書深読】**（土曜午前10時～午後4時） 中川博道神父

2024年

6月8日 9月28日 11月30日

2025年

1月11日 3月15日

**【水曜黙想会】**（午前10時～午後4時） 中川博道神父

2024年

6月12日 7月17日 9月18日 10月16日 11月20日

2025年

1月22日 2月19日 3月19日

**【カルメルの靈性】**（午後5時～午後4時）

カルメル山の聖母 7月14日(日)～15日(月) 中川博道神父

幼き聖テレジア 9月28日(土)～29日(日) 松田浩一神父

十字架の聖ヨハネ 12月21日(土)～22日(日) 中川博道神父

**【祈りの学校 入門編】**（火曜 午前10時～午後4時） 松田浩一神父

2024年

6月4日 7月2日

9月17日 11月12日 12月3日

**【祈りの学校 教会の祈り】**（木曜 午前10時～午後4時） 松田浩一神父

2024年

6月20日 7月11日

9月26日 10月17日 11月14日 12月19日

**【奉獻生活者の黙想】**（午後5時～午前9時）

2024年

8月9日(金)～18日(日) 松田浩一神父(奉獻者のみ)

10月7日(月)～16日(水) 中川博道神父(一般可)

12月27日(金)～1月5日(日)中川博道神父(一般可)

2025年

3月4日(火)～13日(木)中川博道神父(一般可)

【青年男女のための黙想会】(35歳以下) 松田浩一神父

1泊2日(土曜午後5時～日曜午後4時 日曜のみ参加可)

2024年

6月15日～16日 10月19日～20日

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願い致します。

聖書は各部屋に備えております。またタオル類も準備しておりますが、コロナ感染症対策のため各自専用分を持参してもかまいません。

現在は感染防止策のため人数制限をしていますので黙想参加希望の方は早めのお申し込みをお勧めします。

また参加の際には三密回避などを心がける様ご協力お願い申し上げます。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御歳山39-12  
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016 Fax 0774-66-1191

E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

# 「祈りの学校」(2024年度)

キリスト教の祈りを学び、実践する企画です。イエス様から教会へ伝承された「祈り」に基づいて、そして教会の中で培われた「祈り」について学んでいきます。



**日時(入門編) :** 1月 30日 (火) 2月 20日 (火)、3月 19日 (火)、4月 9日 (火)、5月 7日 (火)、6月 4日 (火)、7月 2日 (火)、9月 17日 (火)、11月 12日 (火)、12月 3日 (火)

**\*日時(教会の祈り) :** 1月 11日 (木)、2月 13日 (火)、3月 21日 (木)、4月 18日 (木)、5月 23日 (木)、6月 20日 (木)、7月 11日 (木)、9月 26日 (木)、10月 17日 (木)、11月 14日 (木)、12月 19日 (木)

いずれも、10時から16時まで

場所：宇治聖テレジア修道院（黙想）

指導：松田浩一 神父（男子カルメル修道会）

持参するもの：ノート、筆記、ロザリオ（\*『教会の祈り』）

お問合せ・お申込みは、FAX、ハガキ、E-mailにてお願いします。

〒158-0093 京都府宇治市木幡御藏山 39-12

カルメル会宇治聖テレジア修道院（黙想）

Fax 0774-32-7456

E-mail : teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

# カトリック教会 カルメル 青年たちの学び

## 教皇フランシスコの著作を学びましょう

- 日 時 : ① 2024 年 2 月 10 日 (土) PM5 時～2 月 11 日 (日) PM5 時  
② 2024 年 4 月 20 日 (土) PM5 時～4 月 21 日 (日) PM5 時  
③ 2024 年 6 月 15 日 (土) PM5 時～6 月 16 日 (日) PM5 時  
④ 2024 年 10 月 19 日 (土) PM5 時～10 月 20 日 (日) PM5 時



(尚、日曜日 PM4 時から京都女子カルメル修道院でミサの予定)

- ① 教皇来日講話集：『すべてのいのちを守るため』
- ② 使徒的勧告 『喜びに喜べ』
- ③ 使徒的勧告 『愛のよろこび』
- ④ 回勅 『ラウダート・シー』と使徒的勧告『ラウダーテ・デウム』

教皇フランシスコは、現在起こっている各地の戦争を憂慮しています。日本も国際社会の一員として他人ごとではありません。私たちの思いを凌駕する神の思いとは何でしょう。人間の正義を凌駕する神の義は「いつくしみ」とテレーズは言います。教皇の著作からこのことを学ぶことに致しましょう。

場 所：宇治聖テレジア修道院（默想）

対 象：35 歳までの青年男女

参加費用：下記の E-メールか、FAX でご確認ください。

講話と同伴：松田浩一神父

申込み：〒611-0002 京都府宇治市木幡御藏山 39-12

カルメル会聖テレジア修道院（默想）

FAX : 0774-32-7457

Email : teresiauji@mountain.ocn.ne.jp





## 朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

### ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

### セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所で特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由にご自分の考え方や質問等を記入します。

### サード・ステップ

(参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のものがまとめられ、講師へ送られます。)  
講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

### フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなものもあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

\* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

\* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

\*問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）

# 諸所の企画案内



真命山 靈性交流センター  
サダナ瞑想  
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。  
記載には注意を期しておりますが、  
詳細は各問い合わせにご照会下さい。  
よろしくお願い致します。

テーマ 真の幸せへの道  
「…あなたがたは喜びで満たされる」  
(ヨハネ16. 24)

毎月第2木曜日(10:00～15:00)  
予約は前日の16:00まで

- 1月11日 「イエスは…群衆を見て、山に登られた」 (ソットコルノラ・フランコ神父)  
2月 8日 「神よ…あなたのほかに しあわせはない」 (ソットコルノラ・フランコ神父)  
3月14日 心の貧しい人々は、幸いである (コデノッティ・クラウディオ神父)  
4月11日 悲しむ人々は、幸いである (コデノッティ・クラウディオ神父)  
5月 9日 柔和な人々は、幸いである (Sr. マリア・デ・ジョルジ)  
6月13日 義に飢え渴く人々は、幸いである (コデノッティ・クラウディオ神父)  
7月11日 懐れみ深い人々は、幸いである (コデノッティ・クラウディオ神父)  
8月 休み  
9月12日 心の清い人々は、幸いである (コデノッティ・クラウディオ神父)  
10月10日 平和を実現する人々は、幸いである (Sr. マリア・デ・ジョルジ)  
11月14日 義のために迫害される人々は、幸いである  
(コデノッティ・クラウディオ神父)  
12月12日 喜びなさい。大いに喜びなさい。 (コデノッティ・クラウディオ神父)



・個人またはグループでの黙想会  
研修会も歓迎いたします（要予約）

申込先

真命山 諸宗教対話センター  
865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7  
e-mail: [shinmeizan@gmail.com](mailto:shinmeizan@gmail.com)  
[www.shinmeizan.com](http://www.shinmeizan.com)  
Tel:0968-85-3100  
Fax:0968-85-3186

# サダナ瞑想 ~東洋の瞑想とキリスト者の祈り~

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日 時	指導	開催場所	申込み
名古屋入門 C	7/7(日) 9:30-17:00	Fr. 植栗	聖靈会 八事修道院 ミッショナリーセンター	櫻上(かくあげ) 晓子 Tel:090-7108-7410 <a href="mailto:ngosdn@gmail.com">ngosdn@gmail.com</a>
宝塚 フォローアップ	7/11(木)17:30- 13(土)16:00	同上	女子御受難会修道院 (宝塚市壳布山手)	西村優子 Tel:090-8480-2661
宝塚 I & アドバンス	7/14(日)9:00- 15(月・祝)16:00			西村不在時 野 真理子 Tel:090-6758-3369
フォローアップ	7/21(日) 9:30-17:00	同上	シャルトル聖パウロ 修道女会 九段修道院 (千代田区九段北)	来間(くるま) 裕美子※ *ショートメールは避けてください Tel:090-5325-2518 <a href="mailto:sadhana12378@yahoo.co.jp">sadhana12378@yahoo.co.jp</a>
札幌 フォローアップ	8/22(木)9:30- 23(金)18:00	同上	札幌 カトリックセンター (札幌市中央区)	本間撮子 Tel:080-3260-1864
札幌 I & アドバンス	8/24(土)9:30- 25(日)18:00			本間不在時 山崎有紀 Tel:090-4720-2157
萩 アドバンス	8/29(木)10:00- 30(金)16:00	同上	萩地域施設 (受付にお問合せください)	FR.アレックス Tel:090-8240-7347 <a href="mailto:valex@gmail.com">valex@gmail.com</a>
萩 入門	8/31(土)10:00- 9/17(日)6:00			

※申し込みると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合

は 090-5325-2518 (来間) までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子/Tel & Fax : 042-325-7554

●フォローアップおよびリピーターへの参加…サダナ！を終えていること。

●入門Cへの参加…入門Aまたは入門Bを終えていること。



# 祈りの集い

～沈黙の内に神を求めて～

今年は1月1日に、能登半島地震が起き、輪島市、珠洲市など、能登地方の人々は、家の倒壊、道路の地割れなど、甚大な被害を受けました。233名の方が亡くなられ、1175人が怪我をされ、1万5309人が今なお避難生活を余儀なくされています(1月23日現在)。一日も早く平穏な生活に戻れるよう、心からお祈りしたいと思います。

今年度の「祈りの集い」の前半では、「祈りについての講話」をいたします。今まで、アビラの聖テレジアや十字架の聖ヨハネ、モーリス・ズンデルや聖書などをテキストとして使用してまいりましたが、今回は、ウイリアム・ジョン斯顿神父の著作『愛と英知の道——すべての人のための靈性神学』(2017年、サンパウロ社)を少しずつ読みながら、祈りについての理解を深めて行きたいと思います。

後半では、すべての存在(無機物から植物や動物や人間)を支えておられる、憐れみ深い神の前にありのままの自分を置き、祈りの内に神との交わりを深め、神の声に静かに耳を傾けて行きましょう。

場所:イグナチオ教会岐部ホール 404号室

(JR・地下鉄丸ノ内線・南北線四ツ谷駅徒歩1分)

時間:以下の木曜日、13:30~15:30

7月11日 9月12日 11月14日

主催:慈しみ深き会

指導:九里 彰くのり神父(カルメル修道会)

\* 参加費無料(献金歓迎)

\*問い合わせ先:042-473-6287 篠原(11:00~20:00)

# 『靈性センターニュース』

## \* 郵送終了のお知らせ \*

『カルメル靈性センターニュース』はWeb掲載移行に伴い、冊子の発行を終了しております。

これまで月刊誌として郵送を行って参りましたが、今後は  
Webにてご覧下さいます様、お願い致します。

**宇治カルメル会修道院ホームページ**

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

**「カルメル靈性センターニュース」(PDF)をクリック**  
過去のバックナンバーも揃って掲載しております。  
どうぞご活用下さい。

また引き続きご献金もお願いしております。

**郵便番号口座：** 00910-6-333184  
**加入者名：** カルメル靈性センターニュース事務局

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御藏山 39-12  
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」  
Tel:0774-32-7456  
Fax:0774-32-7457  
[reisei@carmel-monastery.jp](mailto:reisei@carmel-monastery.jp)

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会  
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

